

学びの継承

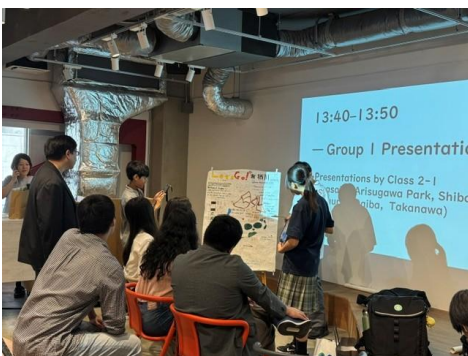
1年生が入学し、令和8年度の学校生活が始まりました。今年度は例年より新入生が増えて、学校が1学級大きくなってスタートしました。保護者、地域の皆様には、本年度も引き続き本校の教育活動へのご理解とご協力をよろしくお願いします。

さて、先日、1、2年生が体育館に集まり、2年生が昨年度、移動教室や総合的な学習の時間等で学習した内容について、1年生に説明する機会を設けました。そういえば、2年生も昨年のちょうど今頃、現3年生から同じような時間を作っていたことを思い出しました。部活動をはじめ、体育大会や合唱コンクールなどの学校全体の行事であれば、下級生は上級生の活躍について直接目にすることができますが、学年として行っていることはそうはいきません。そこで、学年の中で学んだことも下級生にしっかり伝える機会をていねいに確保しています。他にも、昨年度3年生がシンガポールへの海外修学旅行で一人一人が学んだことを、2年生の各教室に出向いてプレゼンテーションしていました。本校では、このような活動を「学びの継承」と呼んで、大切にしている伝統があります。

「学習内容を他の人に教えられるようになったら、本当に理解したといえる」と言われますが、「学び」は内容を各自が知識として身に付けるだけでなく、それを次の世代に伝えることが大切だと気づかれます。理科の教科書に書かれている原理や法則の一つ一つだって、過去の科学者が研究し発見したことが後世に伝わっているのですから。

現3年生は、昨年、学校から近い場所にできた高輪ゲートウェイシティにて、そこを利用している「シンガポール国立大学(NUS)」の留学生と交流する機会がありました。生徒が各グループに分かれ、港区のいろいろな地域を留学生に紹介するポスターセッションを英語で行い、質疑応答のディスカッションをしました。そしていよいよ6月に、その生徒達が修学旅行でシンガポールを訪れます。現地でのいろいろな経験を楽しみに、一層期待が膨らむわけです。

本校で行っている「学びの継承」は、取組内容の引継ぎというだけでなく、学ぶ姿勢や考え方そのものを受け渡すこととなります。「なぜそうなるのか」「自分なりにどう考えたのか」といった思考の深まりが求められます。こうした経験が、卒業後の高校や社会に進んだ後も生きる力となってくれることを期待しています。



NUS 留学生との交流(左)、シンガポールについて上級生からの学びの継承(右)



港区立高松中学校公式 X

学校生活のようすなどを公式 X にて発信しています。学校 HP の学校ブログと合わせてご覧ください。